四谷の
千枚田だより
第179号

戦後の食糧事情

敗戦で日本の食糧供給基地であった朝鮮、台湾、満州を喪失、百五十万人ともいわれる海外引揚者により消費人口が増大、我が国の食糧事情は逼迫の状態に陥り一千万人餓死説が流布された。

我々、子供の頃には、田んぼのコメは反別割りで供出、学校の運動場にはサツマイモを作ったり、イナゴ捕りが宿題だった。捕ったイナゴは翌朝学校にもっていき、学校では大釜で茹でて、天火干しにして、カマスに入れ、動物蛋白源として出荷、学校収益になったようだ。今で思えば、貧しい時代を強いられた経験も懐かしい。

棚田(千枚田)をみても不動沢の山付きなど、水が引けるところは田んぼに開墾、細尾前や佐賀、十王堂付近は減反政策施行の四十六年頃まで小さな田んぼを拡幅、コメ増産に費やしていた。にも、関わらずこのような猫の額のような山間地までも、コメの生産調整(毎年二割削減)の割り付けが五年間実施された。

当時、千二百九十六枚(昭和四十年、(舜)が通勤時に数えた枚数)約十一㌶が、平成三年には三百七十三枚、現在は地域の宝として地元耕作者や千枚田に魅せられた人々が保全管理に日々、頑張り四百二十枚、三・六㌶が保全管理されている。

米の生産調整政策の経緯

生産調整政策は、昭和四十年代前半に顕在化した米の生産過剰と古米在庫の累積を背景として、昭和四十四年度に試験的に実施されたことが最初である。翌四十五年度には、生産調整目標量を百万トンとする緊急避難的な措置がとられた。四十六年度以降は、米の生産過剰が一過性的ではなく構造的なものであるという判断から、生産調整の目標量を定め、複数年に亘って集中的に実施する対策として本格的に進められた。

稲作転換対策

(昭和四十六～五十年度)

最初の対策である稲作転換対策は、水田の休耕と転作の二本立てで進められたが、石油危機等による経済混乱が起こると、食料の安易な海外依存ではなく自給の向上が重要との認識から、昭和四十八年度限りで休耕奨励補助金が打ち切られ、転作中心の内容に切り替えられた。

稲作転換制度は今年が最終年度です

鳳来町報(昭和五十年七月号)

政府の総合農政施作として、奨励されてきました米生産調整(稲作転換)は、今年度が最終となります。今年度も稲作転換希望農家は四百五十五戸、面積四十二ヘクタールと町の目標面積三十五ヘクタールを上まわる大勢の申込みがありました。稲作転換制度は単なる米の減産のためのものではなく、本来のこの制度のあり方を踏まえたものとして計画された農業経営がなされているか一度ふり返ってみていただきたいと思います。そこで七月中に調整水田の確認調査が行われますので、その際には皆さんのご協力をお願いします。

原文掲載

都市近郊から訪れる輩が、「休耕地が多い」とか、「千枚田は荒れてしまう」、「もったいない」など、事情も知らずに、勝手な推測が飛び交っているが、冗談じゃあない、コメ余り対策として梅やシキミ、花木などを奨励されて転作したものの、いざ、出荷しても荷余り状態で(そりゃあそうだよ、日本中が稲作転換で花木を作っとちゃ、売れる訳がないじゃんかん)皆んな怒って抜いでしまったから今の千枚田がある。ちなみに、今、田んぼの中に梅や栗、シキミが植えられているのを見れば事情(転作作物)が判るし、百姓はどれだけ国の政策に振り回され、如何に泣かされてきたことだか、ちったあ、判ってもらいたいもんだ。

こども農学校

六月二十三日、ＪＡ愛知東主催の体験型の農業イベント「こども農学校」の子供たち四十七人が山崎俊彦さん（全農ビジネスサポート）を講師に棚田の生物を調べた。網やバケツを手に、オタマジャクシやタニシを捕らえ、田んぼの生物の状況を観察した。

ＪＡ愛知東ＨＰより

校外学習

七月十三日

鳳来寺小学校五年生は、最近頻繁に発生する地震、風水害など自然災害に備え、過去に大きな被害があった大代の山崩れのお話を聞きたいと子供たちが決め、お願いされた。

そこで、（舜）の**げなげな噺**より、先祖が災害に遭った高橋庄一さん、高橋伸治さん、夏目宏一さんにお願いした。山津波は明治三十七年七月十日、午前十一時頃、四谷大代の鞍掛飛び渡りで山崩れが起こり、天王川沿いの民家を一気に押し流し、約六百㍍下方へ流れ出した。

死者十一人、けが三十四人、家・木戸四、釜屋一軒、隠居屋三戸、馬二頭

（海老風土記より）

先祖が被災に遭った方たちのお話や災害場所から検証すると、ナギ元の山崩れで栃ノ木が倒れ、ダム化（沢の水が止まった）、それが決壊して山津波（鉄砲水）となり、一気に家屋を押流したようである。家屋流失付近の畑や石垣、井戸もそのままで、家だけが濁流に押し流された模様。酒屋の荒太郎サは山津波の前を走って逃げ、助かったそうである。等々、おかげで、子供たちは、生々しいお話が聞くことができた。

巷では、四谷の千枚田は何回も起きた山崩れを復元され、など、至極ごもっともな話が流布しているが、地元の者として、過去に山崩れで千枚田が流された、とか、山崩れの跡を復田した。など、あまり聞いたこともないし、知らない。

ホウライジュリが咲きだした

平成十二年頃までは連谷の里や千枚田のあちこちに地域の花として咲き誇っていたホウライジュリもイノシシの拡大で消滅の危機に晒されている。

イノシシはやぁあ、ホウライジュリの球根が大好物でのん、ツボミや花の咲いた時に、わざわざ、のぞきに来りゃあがってのん、そいで、花が散っちゃうと球根が旨くなるのを知っとってのん、食べにくるだぞん。わしより頭がいいし、まぁ ふんとぅに、無くなっちゃうのん。

ホウライジュリの名称は標準和名ヤマユリの地方名でヨシノユリ（吉野山）、エイザンユリ（比叡山）、ハコネユリ（箱根山）など、それぞれの地方名を持っている。

鳳来寺百合の名は、飯沼慾斎著「草木図説」草部二十巻の巻五（一八五六）、また、梅村甚太郎著「史跡名勝天然記念物・鳳来寺山植物誌」（一九三五）に記載されている。

四谷の千枚田が教科書に

「特別教科 道徳」副読本 愛知県版 明るい心 六年 写真で知ろう 大切にしたい愛知の風景

美しい自然の風景も、人の手と心で守られています。私たちには、何ができるでしょうか。

四谷の千枚田（新城市四谷地区）多くの田んぼが階段状に並ぶ棚田。山地の人々の生活を支えてきた。

今後の予定

- 七月十七日、市立舟着小学校の千枚田自然探訪
- 七月二十一日、連谷老人クラブ研修旅行
- 七月二十三日、新城市環境基本計画策定委員会へ出席

発行　平成三十年七月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責　小山舜二